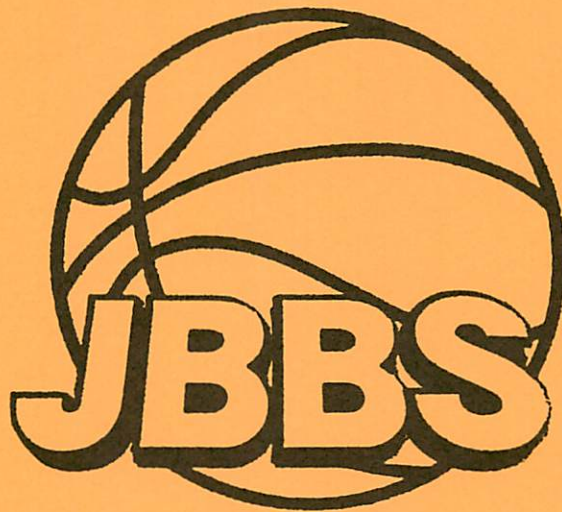


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

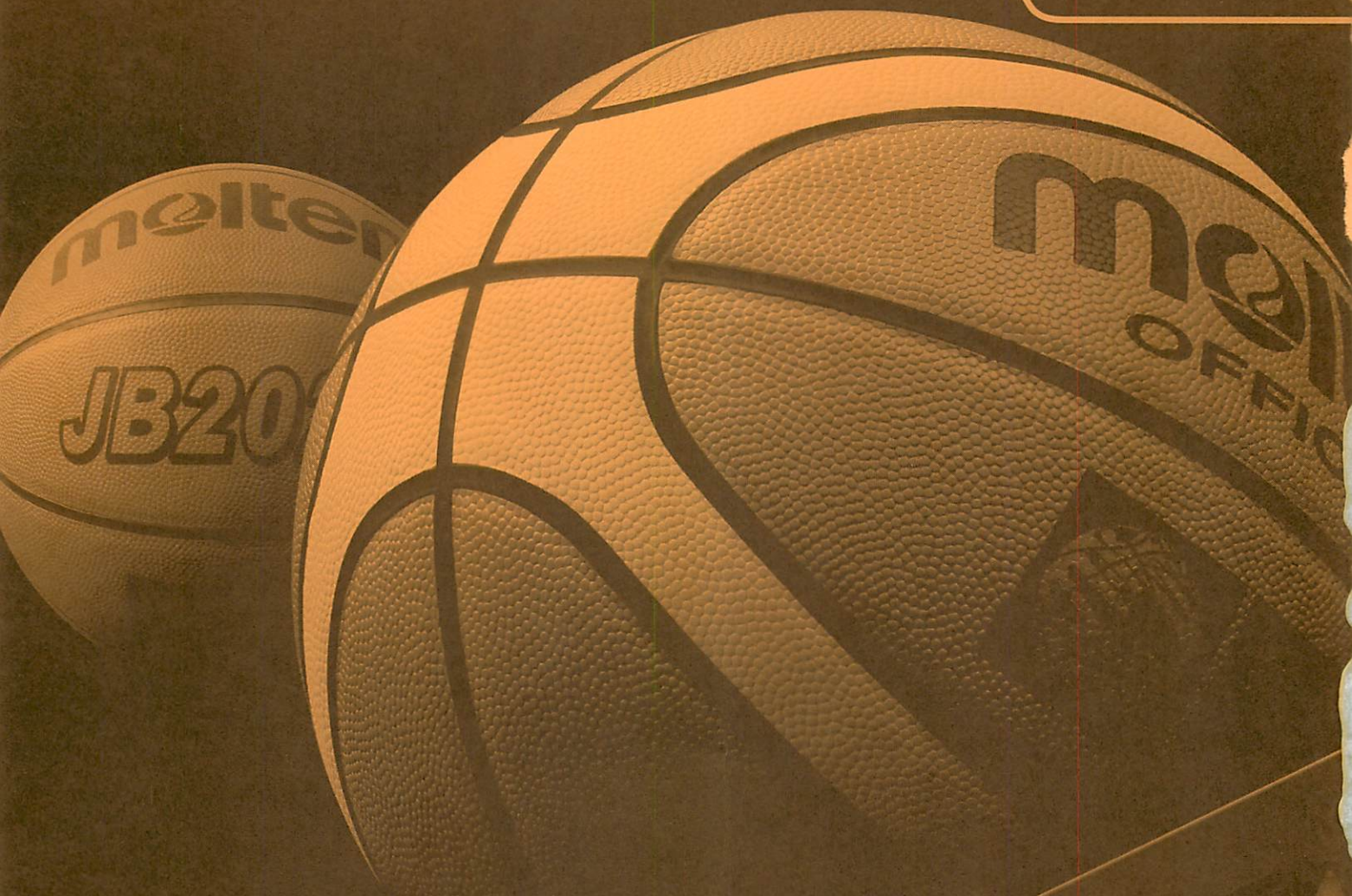
No:56



2012年11月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 検定球
貼り・天然皮革、7号球



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7

目 次

○ 新生男子日本代表 FIBA ASIA CUP 準優勝	3
○ 秋の講演会開催 日本協会副会長兼新リーグ運営本部長 丸尾 充氏	8
○ 国際審判OB座談会を開催	歴史部 14
○ 渋谷バスケット通り命名1周年 入り口にバスケットボールモニュメントを設置	21
○ 12月21日はバスケットボールの日 代々木第二体育館で12月19日に記念イベントを開催	普及部 23
○ 第64回全日本大学選手権大会結果	24
○ WINTER CUP 2012 組み合わせ	26
○ 日本協会平成25年度競技日程	28
○ 計報・追悼文	29
○ プラザ こぼればなし	31

新生男子日本代表 FIBA ASIA CUP 準優勝

[編集部]

去る9月14日から東京大田区総合体育館で開催されていた、FIBA ASIA CUPにおいて新生男子日本代表チームは、中国を破るなどして健闘した結果準優勝となった。

この大会は、2014年世界選手権大会の予選となる男子アジア選手権大会へ出場するための第一歩となる大会で、優勝チームにはアジア選手権大会への出場権が与えられ、2位から4位までのチームが属するゾーンに対してアジア選手権大会への出場枠が与えられる。

鈴木ヘッドコーチ率いる新生日本代表は下記の通りで、将来を見越して比較的若い選手を起用しているのが特徴的である。

主なスタッフ

役 職	氏 名	所 属
チームリーダー	佐古 賢一	日本協会
ヘッドコーチ	鈴木 貴美一	日本協会
アシスタントコーチ	納谷 幸二	岡山商科大学付属高校
S & C コーチ	小山 孟志	日本協会

選 手

No	氏 名	P	身長 c m	体重 kg	年齢 歳	所 属 (出身校)
4	古川 孝敏	S G	190	90	24	アイシンシーホース (東海大学)
5	田中 大貴	S G	191	88	21	東海大学3年 (長崎西高校)
6	比江島 慎	G	190	87	22	青山学院大学4年 (洛南高校)
7	ショーン・ヒクトリー	P F	200	95	21	トヨタ自動車アルバルク
8	太田 敦也	C	206	110	28	浜松・東三河フェニックス (日本大学)
9	栗原 貴宏	S F	192	82	24	東芝ブレイブサンダース (日本大学)
10	竹内 公輔	P F	206	98	27	トヨタ自動車アルバルク (慶応義塾大学)
11	櫻井 良太	P G	194	85	29	レバンガ北海道 (愛知学泉大学)
12	桜木 ジェイ アール	C F	203	105	35	アイシンシーホース
13	渡邊 裕規	P G	180	74	24	パナソニックトライアンズ (青山学院大学)
14	金丸 晃輔	S G	193	78	23	パナソニックトライアンズ (明治大学)
15	永吉 佑也	C	199	110	21	青山学院大学3年 (延岡学園高校)
平 均			195	92	25	

年齢は9月現在

この大会への出場チームは前号にてお知らせしたように全部で10チーム、A B二つのグループに分かれて各々総当たりの予選ラウンドを行い、各グループ上位4チームが決勝トーナメントへ進む方式で行われた。

予選ラウンド成績

グループA								
	L I B	P H I	C H N	U Z B	M A C	勝	負	順位
レバノン		68-78	89-69	84-49	120-51	3	1	1
フィリピン	78-68		68-71	85-50	98-46	3	1	2
中国	69-89	71-68		107-47	106-46	3	1	3
ウズベキスタン	49-84	50-85	47-107		81-61	1	3	4
マカオ	51-120	46-98	46-106	61-81		0	4	5

グループB								
	I R I	J P N	T P E	Q A T	I N D	勝	負	順位
イラン		71-65	71-63	85-75	83-71	4	0	1
日本	65-71		90-78	73-69	90-72	3	1	2
チャイニーズ・タイペイ	63-71	78-90		75-73	113-88	2	2	3
カタール	75-85	69-73	73-75		83-71	1	3	4
インド	71-83	72-90	88-113	71-83		0	4	5

予選ラウンドにおける以上のような成績によりマカオとインドを除く8チームが決勝トーナメントへ進出、日本はグループBにおいて3勝1敗の2位で決勝トーナメント進出となった。

予選ラウンド日本代表の戦い

予選ラウンドにおいて日本代表は、14日のカタール戦、15日のチャイニーズ・タイペイ戦、16日のインド戦と順調に勝ち進み、17日のイラン戦に勝てば予選ラウンドグループB第1位で決勝トーナメント進出かと思われたが、ここでつまづく結果となってしまった。

そのイラン戦、第1、第2ピリオドでディフェンスを頑張って、前半25対15と10点差をつけて折り返したが、第3ピリオド終盤、イランに連続3Pシュートを決められて51対46の5点差に詰め寄られた。

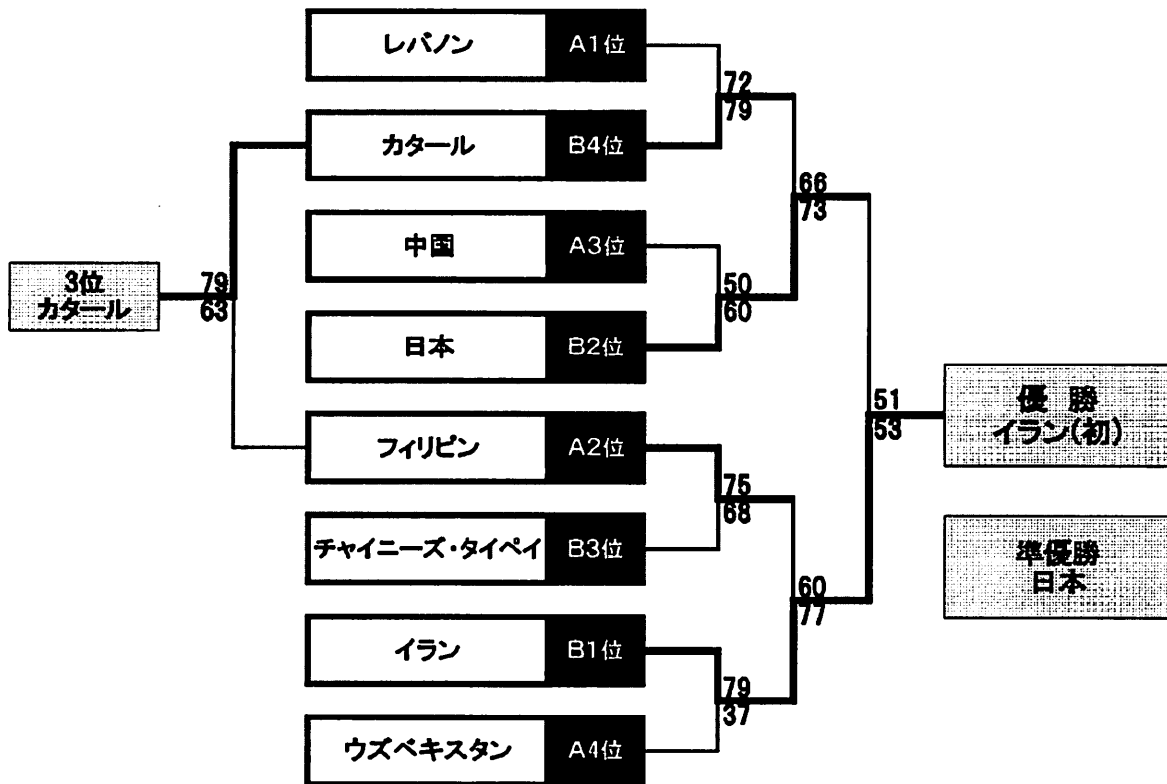
第4ピリオド早々イランに連続得点され、3分過ぎに54対55と逆転される。その後3Pシュートの応酬で一進一退となったが、最後にイランが3Pシュートで抜け出し結局65対71の6点差で敗れた。

イラン戦データ

	2P確率	3P確率	フリースロー	リバウンド数
日 本	53%	30%	88%	35
イラン	55%	29%	80%	29

この試合をデータでみると、わずかではあるが日本が優っているにもかかわらず勝つことができなかったのが残念だ。観戦していて、日本が逆転された時間帯におけるイランの勝ちにこだわる執念を感じた。比較的若い新生日本チームにおいては、その辺がこれからの課題と云えるだろう。これによって日本は予選ラウンド第2位で決勝トーナメントへ進むことになった。

決勝トーナメント勝ち上がり表



決勝とトーナメントで日本は最初に中国と対戦、第1ピリオドこそ1点リードされたが、その後は出場した全員が頑張って60対50とロースコアながら勝利し準決勝へ進出した。

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本	15	16	13	16	60
中 国	16	9	12	13	50

準決勝は予選ラウンドで対戦して勝っているカタールと対戦、第4ピリオドに一時つめ寄られる場面もあったが73対66で逃げ切って決勝へ進出した。

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本	9	21	21	22	73
カタール	12	7	20	27	66

大会最終日の9月22日、決勝戦の相手は予選ラウンドで敗れているイランとの対戦となり、日本はリベンジを果たすべく果敢に挑んだがわずかに及ばなかった。

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本	11	12	21	7	51
イラン	13	17	10	13	53

第1ピリオド、日本は固さからかミスが目立ってイランに先制され6分過ぎに7対12とリードされる。その後立ち直った日本は#10 竹内のシュートなどで11対13まで追い上げる。

第2ピリオド、逆転したいところだったが、逆にイランに速攻を許し連続得点され6分過ぎに17対25と8点リードされてしまう。その後積極的なオフェンスからフリースローを得るが、その成功確率が極端に悪く23対30と7点差のままで前半を終える。

第3ピリオドに入るとそれまでとは打って変わったように日本の積極的なオフェンスが功を奏し5分に32対32の同点に追いつく。更に#14 金丸の3Pシュートなどでリードし44対40と4点のリードで第4ピリオドへ。

第4ピリオド、お互いに厳しいディフェンスで一進一退となり、両者とも3分間位得点が止まる。その後日本がわずかに抜け出して51対47と4点のリードを奪ったが、その後得点を抑えられている間にイランの3Pシュートなどで逆転され、終了間際に#4 古川が3Pシュートを打ったが成功せず結局53対51で敗れた。この結果日本は、2大会連続の準優勝に終わった。

大会を振り返って

新生日本はそれなりに頑張ったが、今一步というところで優勝を逃した。予選ラウンドと決勝のいずれにも敗れた相手チーム、イランの勝利への執念にはすさまじいものを感じた。

決勝戦データ

	2P確率	3P確率	フリースロー	リバウンド数
日本	28%	33%	63%	33
イラン	46%	18%	71%	34

このデータから云えることは、日本代表の2Pシュートとフリースロー成功率の低さであろう。2Pシュートは全部で32本打って成功は9本だけ、フリースローは24本打って成功は15本である。2Pシュートについては相手ディフェンスが厳しかった場合どうしても成功率が低くなるが、フリースローについては全くのノーマークでゆったりと打てるにも拘わらず63%の成功率はいただけない。NBAのフリースローは、試合を見た方はうなずけるかと思うが、実に正確である。

フィールドシュートの際、相手ディフェンスはファウルギリギリの厳しさとなり、よって2Pシュート成功率が下がるのは当然である。そしてファウルをもらっても、フリースローの成功率が低ければ、その分相手が有利になる。

今回決勝のイラン戦では、2Pシュートの成功率とフリースローの成功率の低さが互いに関連していることを物語っている。

日本は3Pの成功率が33%にも達し相手よりはるかに上回っているのに、勝利に結びつけられなかったことは残念である。そのあたりでは勝利に執念を燃やしたイランの方が優って終盤での3Pシュート成功に結びついたと思われるし、日本代表チームの今後の課題と言ってもよいであろう。

新生男子日本代表は、今回の大会で優勝国イランチームに予選ラウンドと決勝戦で2度

対戦し善戦したが、いずれも惜敗している。しかしながら2試合ともいい試合展開であり、将来が期待できるチームとして声援を贈りたい。

予選ラウンドの試合では第3ピリオド中盤までリードしていたにも拘わらず、それまでのスピードあるプレイが影を潜め守りの姿勢に変わり得点が止まった。その結果相手の必死の攻撃を防ぎきれずに追い上げられ、第4ピリオドでは14対25という大量の得点差をつけられてしまった。

また決勝戦では、試合開始から慎重な試合運びをした結果スピードあるリズムに乗れず、相手にリードを許してしまい、追撃したが間に合わなかった。

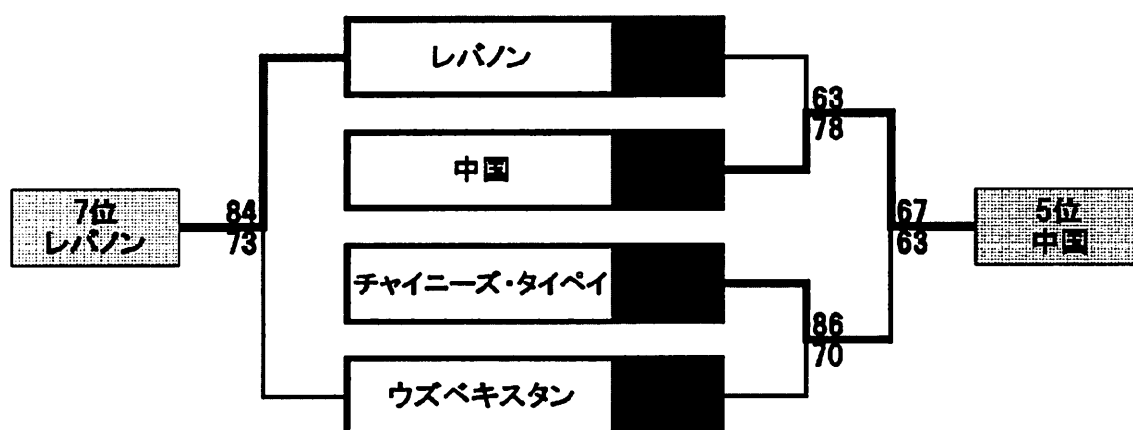
隼ジャパンなのだから、その名の通りスピードをモットーに最初から最後まで速い展開で攻撃的なプレイを望みたい。今回の大会で随所においてスピードある好プレイが見られたのだから、これから更に磨きをかけ身長が足りない分をスピードプレイで凌駕して、次の大会では良い成績が残せるよう練磨して欲しい。

決勝戦を終えて日本代表チームの鈴木ヘッドコーチは選手を労って次のようにコメントしている。

「フリースローが入りませんでした。これも力のうちです。あの時シュートが入っていればというのは言い訳にしか過ぎず、入らないのが今の実力です。これからもうワンランク上に行けるように努力します。今後相手チームもランクアップするでしょうが、日本代表チームも相手以上になれるよう、来年に向けて頑張っていきたいです。選手たちはこれまでの厳しい練習に耐えてくれましたし、私の要求を一生懸命に徹底してくれたことに感謝しています。このチームの今後が楽しみです。」

今回の結果によって、イランは世界選手権大会の予選となるアジア選手権大会への出場権を得、東アジアゾーンにおいては4チームがアジア選手権大会に出場できることになった。

※5-8位順位決定戦



秋の講演会・交流会開催

日本協会副会長兼新リーグ運営本部長 丸尾 充氏

[編集部]

恒例の講演会と交流会は11月1日(木)に東京御茶ノ水にある池坊会館で開催された。講演会に先立って佐室会長は次のように挨拶した。

佐室会長挨拶



本日は多数の方々においでいただき有難うございます。今年度から会長に就任いたしました佐室です。振興会は日本協会に協力しながらバスケットボールの普及発展のため、いろいろな活動を行っております。日本協会にはミニ、中学、高校、大学、実業団、クラブなどで2,000チーム以上が登録されており、それ以外にも3ON3やFIDなどのチームもありますが、なかなか振興会のことが浸透されないのが現状です。

振興会では年に4回「バスケットボールプラザ」という会報誌を発行し、国内はもとより国際試合等の情報を提供しておりますが、これは日本協会にはない貴重なバスケットボールの情報源です。

振興会に入ってくださいと、この情報源ともいえる冊子が無料で自宅へ届きますので、会員でない方がおられましたら是非とも加入されることをお勧めします。

講演会

今回の講演会講師には2013年から発足する新リーグ発足について、日本協会副会長で新リーグ運営本部長として活躍されている丸尾 充氏をお迎えし、これまでの経緯と新リーグ運営などについてお話いただいた。新リーグについては参加チームを公募するなど、いろいろ工夫しながら現在に至っており、マスコミやバスケットボール界の関心は高く、会場には50名以上の方が集まり丸尾講師の講演に耳を傾けた。

丸尾 充氏プロフィール



- 1948年 静岡県出身 63歳
静岡高校から慶応大学卒業
- 1971年 住友金属工業㈱へ入社
- 1979年～1985年 住友金属ヘッドコーチ就任 現役、コーチ時代を含めて日本リーグ、全日本選手権大会で8回優勝
- 2002年 住友金属工業㈱常務執行役員
- 2006年 住友金属工業㈱専務執行役員
- 2008年 住友鋼管㈱取締役社長
- 2011年 日本協会副会長
- 2012年 住友鋼管㈱取締役会長

丸尾新リーグ運営本部長講演概要

<はじめに>

本日はバスケットボール界のプロとも云えます多くのOBの方々を前にして、ありきたりの話では通用しないと思い、レジメを用意いたしました。

私は住友金属バスケットボール部が休部となった1997年から、暫くバスケットボール界から遠のいておりましたが、昨年日本協会の副会長を委嘱され、日本協会のプロ化に関する経緯などを勉強させていただきました。その経緯が新リーグの生い立ちのように思えますのでその辺りからお話をさせていただきます。

<経緯>

日本協会では2005年にプロ化検討委員会を立ち上げ、バスケットボールの発展のためにプロリーグを作ろうということで検討が始まりましたが、企業チームの反対があつてプロ化の話は挫折しました。その頃、時を同じくしてbjリーグが発足しております。

その後2008年になって、改めて「トップリーグあり方検討委員会」が発足、オリンピック出場や世界選手権大会を目指して、バスケットボール界におけるトップリーグはいかにあるべきかの検討が始り、2010年2月日本協会の理事会でトップリーグ（新リーグ）を2013年につくることが承認されました。

私がJBLの副理事長をしていた2010年、当時日本協会専務理事であった木内さんから、トップリーグの立ち上げを手伝うようにと話があり、現役社長の業務を持っていましたが、先輩の云うことに逆らえるはずもなくお引き受けしました。

トップリーグ検討委員会の基本的な考え方としては、2005年発足のプロ化検討委員会の指針を引き継ぐような方向で、いわゆるプロ化を目指すものでしたが、結果的に日本協会の理事会で承認されたトップリーグの骨子には、プロ化という言葉は入っていません。

トップリーグ検討委員会の委員諸氏の思いは皆プロ化なのですが、前回同様企業チームの反対をやわらげられるようプロリーグという言葉避け、プロの精神を引き継ぎながらも現実的な対応として何とかトップリーグを立ち上げるという表現になり、新リーグ準備室を立ち上げました。

<新リーグ準備室発足>

以上の経緯に基き日本協会とbjリーグ、日本協会とJBLがトップリーグを立ち上げるということで2010年4月にそれぞれ覚書を取り交わしましたが、その中にはプロリーグという名称は入っていませんでした。それはJBLとbjリーグとの間で、次の5項目を主体として運営して行こうというものでした。

- 1) 自立的な運営を行なう
- 2) チームエリアを決めそれに応じたカンファレンスをおく



3) チーム名に地域名を付与すること

4) 健全な経営形態とすること

5) 競技力の強化を目指すこと

もちろんb jリーグについては日本協会の傘下に入って一緒にやっていくということで調印をしましたし、2013年の発足を目処にこれまでのお互いのリーグについてはそれぞれ責任を持って対処していくということが2010年の4月に決まりました。

私としてはその内容を更に具体化すべくb jリーグの全チームと1年以上にわたって話し合いをしましたところ、以外にも、理想として総論には賛成でも実行する各論となると、現状維持派が多く賛成するところは殆どいませんでした。

JBLに対してはチームエリアを徹底してチーム名に地域名をつけること、従来半分以上の試合について地方協会に丸投げだった運営や体育館の確保、チケットの販売にいたるまで全てチームが運営することなどを主張しました。チームが運営に携ることによる地域での活性化や、新しいファンの獲得などに取り組まなければ、今後チームとして立ち行かなくなると説得しました。



b jリーグのように完全な分社化は無理としても、経営そのものを自分たちの責任でやらなければ、これからチームを存続していくことは困難になるだろうということでプロチームである栃木と北海道を除く六つの企業チームに納得していただきました。更にプロという表現を使いたい旨最後まで交渉しましたがそれだけは難しかったので、中味的にプロの運営をすることで意見一致を見、大きな一歩を踏み出しました。

一方b jリーグでは、株式会社であるb jリーグを解散して新リーグに参加することが簡単には出来ないという事情が出てきました。ご承知のとおり株式会社であるb jリーグには多くの株主の方が出資をして資本形成をしており、解散となればその出資に対する返済をしなければならず、現状それはできないということでした。

それならばb jリーグの会社を残して、新リーグ運営の一部の仕事をやるようにしてはどうかなど別な角度からの提案をし、いいところまでこぎつけましたが、2011年の10月になって意見の一致をみるのは困難となりました。

日本協会は今年の4月から公益財団法人化され、傘下に都道府県協会や各連盟を置くことは問題ありませんが、株式会社という法人を直接的な傘下に置くということできません。また、b jリーグに対して資本参加することはできません。私はそんなことから現実的な無理難題が多すぎると考え、一旦冷却期間を置くことにしました。

また各チームの間でもいろいろな意見や考え方が出てくるようになり、地域名や自主興行、サラリーキャップの問題などを含めて前に進みにくくなりました。例えばサラリーキャップでは、JBLチームにおいての年俸は日本人選手で2億2千万円、外国籍選手1名につき18万ドルですので、TOTAL 2億5千万円程度になりますが、現状ではそんなに出しているところはなく、およそチームとして1億5千万円から2億円の間でしょう。

これがbjリーグのチームですと約7千万円ですので格差があり過ぎます。bjリーグチームのサラリーキャップを1億程度に引き上げ、JBLチームのサラリーキャップを引き下げてはどうかとの意見もでしたが、下げられる方のチームから反対も出て一致点は見出せませんでした。全体の事業費については、一番多いJBLチームでも年間3億円程度ですので、経費的にはbjリーグチームとJBLチームの差はさほどないようです。

サラリーキャップの問題や、経費のことなどを含めて両リーグと交渉をしてきましたが、結局いろいろな項目面で一致することができずAリーグ（新リーグの上位グループ）を例にとると新リーグに参加表明した現行チームはJBL全チームとbjリーグの1チームでした。それ以外に筑波、兵庫、熊本といった地方チームが参加を表明していますのでチーム数は全部で12となりました。

bjリーグチームにしてみれば、現在曲がりなりにも運営できていますので、bjリーグから飛び出して新リーグへというのは考えにくかったのだと思います。

＜新リーグ運営本部発足＞

現在新リーグの定款や諸規定などを作成していますので、それらが完成し、日本協会の公益財団法人化に伴う基本規定が評議員会で承認されれば、bjリーグチームの位置づけが明確になります。

現在2013年度から新リーグ発足を目指していますが、発足後2年くらい経てばbjリーグチームから参加してくるチームが増えると思っています。またbjリーグ問題の自主的解決も必要です。今、発足に向けてスポンサー集めやテレビなど順次準備をしていますので、発足後それらが具体化すれば現在参加表明していないチームも参加してくるでしょう。



今年の4月からJBLチーム「リンク栃木」の山谷社長を口説いて、新リーグ運営副本部長に就任してもらいました。新リーグにおいては興行性の観点を重視しないとリーグが成り立っていきません。バスケットボールの興行をどうするのか、バスケットをビジネスとして成り立たせるにはどうすればいいのか、優秀な人材を確保しないとバスケットビジネスは成り立たないと思っの抜擢です。山谷氏はリンク栃木を見事に成功へと導いた実績の持ち主として大変たけた方で、来年からリンク栃木の社長を辞めて専従してもらう予定でおります。今回、筑波や熊本といった新興チームが名乗りを上げていますが、これらの地方チームが如何にすれば成り立っていけるのか、リンク栃木の手法を参考にしたい方がいいと思っの人事です。

熊本のチームの例を挙げますと、熊本が何故新リーグへ？といった疑問が出ると思います。私も心配だったので熊本へ何度か出向いて状況を調べました。

熊本では「熊本にプロバスケットを作る会」なるNPO法人が設立されていて、発足後4年が経っているそうです。熊本テレビなどのメディア、行政の県知事や市長にも面会して事情を聞いたところバスケットに対する経営的な考え方がしっかりしており、資本金の3千万円はすぐに集まったとか。慎重だった熊本県協会も、現在では地元の体制作りに全面的にバックアップしているようです。

新リーグに参加するにはそういった経営的な考え方がしっかりとしているかを見極める必要があり、行政を含めた応援体制が整っているかが重要です。競技力は、早い話が選手のトレードなどで一気に変えることが可能だと思いますので、私は競技力についてはそんなに心配していません。筑波や兵庫についても行政を含めた経営的応援体制を確約していただき新リーグへの参加を認めました。

現在bjリーグの21チーム中、半数以上のチームが赤字経営と聞いていますが、経営的に赤字だと将来への発展性がなくやがては行き詰ってしまいます。2013年には興行的にも成り立つような仕組みを作って、スポンサー集めや集客増につなげたいと思っています。

昨シーズン1試合あたりの平均集客数をみてみますと、JBLで約1,800人、bjリーグで約1,500人です。沖縄のように3,000人を超しているチームもありますが、なかには数百人単位というところもあります。今シーズンに入ってからどのチームでも集客が昨年の平均を下回っていて、景気の影響からかバスケットボールに限らずスポーツ全体が集客減になっており、サッカーを除いてはどのスポーツも苦勞しているようです。新リーグについては何としてでもスポンサーを集め、集客増を含めて努力しなければなりませんし、それが日本協会の事業の成功につながるものと確信しています。

例えば集客面からみればJBLよりもbjリーグの方が努力していると思いますし、地域性や観客に対する対応についてはbjリーグを評価していると思います。しかし経営面でみれば、bjリーグは現実に直面して苦しんでいますので、その解決には暫く時間が必要だと考えます。

日本協会が公益財団法人化したことと併せて、トップリーグの位置づけを更に明確にするため、この程新リーグの名称をNBL(National Basketball League)としました。我が国のトップリーグが確固たるリーグとする意志を表すべくNational(国家の)という言葉を用いました。

いずれにしてもbjリーグを含めて全体が一本化するにはもう少し時間が必要で、その意味では発足後2年余りが過ぎる2015年あたりが次の大きなターゲットになるでしょう。

＜パナソニックの問題＞

次にパナソニックの問題について少し触れてみたいと思います。パナソニックが今期かぎりバスケットボール部を休部にするということは我々にとって極めて大きな問題です。

あのパナソニックでさえ経営的に悪くなればいくつかのスポーツ部を廃止するということは、企業スポーツには自ずから限界があると云うことです。どんなに大きい企業のチームでも業績に左右されるのはやむ得えず、一つの企業にチームがすべておぶさることに限界が生じるということがはっきりしました。1990年代にいろいろな企業チームが休部、廃部に追い込まれましたが、当時プロという組織もなかったのでチームは解散せざるを得なかったのだと思います。

これまで新リーグは12チームで発足する予定で進めてきましたが、パナソニックから新リーグ参加辞退の申し出を書類でいただきましたので、1チーム減って11チームになるのか、パナソニックを引き継ぐようなプロチームができるのか今模索していますが、この1ヶ月余りが勝負になりそうです。パナソニックチームは15名中7名が社員選手で、残りはプロ契約選手ですが、いずれにせよ選手が納得する形にしないと選手の犠牲は大き

なものがああります。

<むすびに>

過去にもありましたが企業チームはどうしてもその企業の業績に左右されますので、企業に費用の全てを出していただくというチーム運営をだんだん変えて、地域に根付いたプロ化をしていかなければならないと思います。以前プロ化を検討した時はもっぱら競技力向上がメインテーマでしたが、今では競技力アップとともに地域に根を下ろしたチームの継続性、つまり経営が重要と思っています。バスケットボール界が一本になってプロ化を推進していかないとやがてはバスケットボールそのものがすたれていくのではないかと心配しております。bjリーグを含めて課題は多いですが、2013年のスタートに向けてあらゆる面でこれから努力してまいりますので、振興会の皆さんにおかれましてもご支援のほどよろしくお願いいたします。

以上

交 流 会

講演会に引き続いて開催された交流会は、日比野副会長の乾杯の音頭で始まり、和やかな歓談が繰り広げられた。



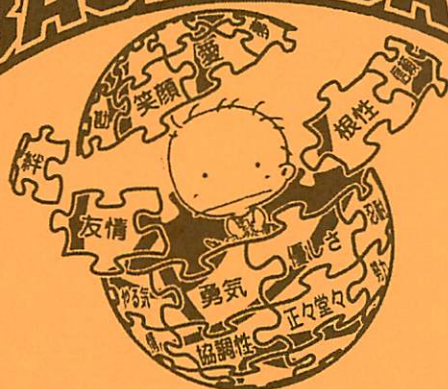


DUPER®



表現の自由人。

BASKETBALL

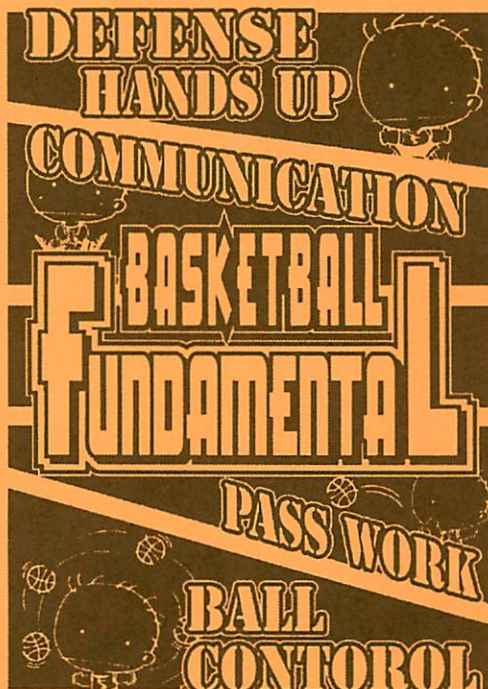


©DUPER FIVE CO., LTD.

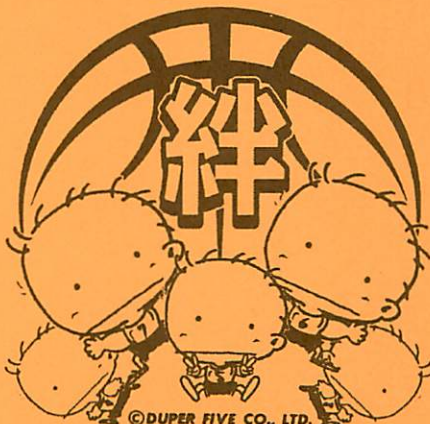
AIRCATCH



©DUPER FIVE CO., LTD.



©DUPER FIVE CO., LTD.



©DUPER FIVE CO., LTD.

DUPER®

URL : <http://www.duper.co.jp>

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-3-5
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

E-mail: info@duper.co.jp



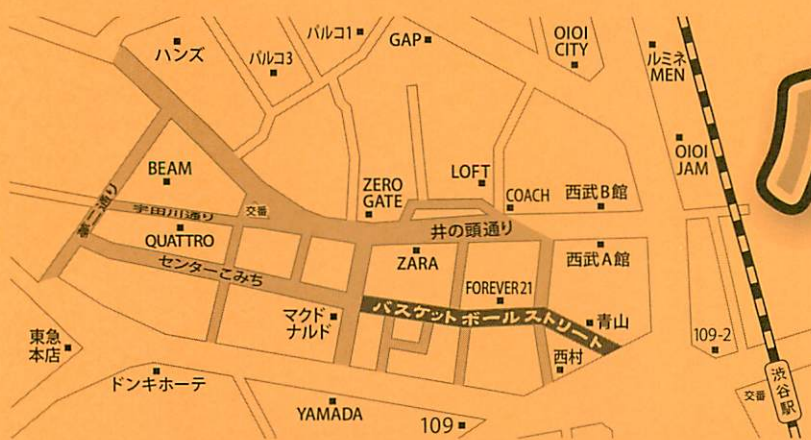
センター街メイン通りは、

BASKETBALL STREET

となりました。

渋谷センター街では、スポーツ振興と青少年の健全育成を基本理念に、国際色・ファッション性を考え合わせ、通りの名を「バスケットボールストリート」と命名。

5年、10年とかけてこのバスケットボールストリート、通称「バスケ通り」を定着させていきたいと考えています。



バスケットボール ストリート



渋谷センター街